

黒部川流域の特徴と今後必要となる対策(案)

資料2-1

【黒部川の洪水特徴(ハザード)】

・急流河川のため、短時間で洪水流量が増大する懸念

・洪水時の流水は高流速かつ土砂を多く含み、強大なエネルギーを有す

・越水なき堤防決壊(侵食で決壊)

・扇状地氾濫では浸水深は浅いが、流速は比較的速い

・県内他河川と同時被災の可能性(S44)

【黒部川の流域特徴(脆弱性)】

・浸水深は比較的浅いが、下流の海岸沿い地域は浸水深が深く、浸水継続時間長い

・流水客土で整備した農地が氾濫流で表土流失や作物被害の懸念

・製造業比率高く、扇状地内に大規模工場等立地

・地域の産業、観光を支える道路、鉄道の浸水で機能不全となる懸念

・扇状地内で地形的に雨水排水しにくい箇所あり

・発電、下水道、農業集落排水等の施設が点在(浸水で機能不全の恐れ)

・世帯あたりの自動車所有比率高い(自動車の浸水被害の懸念)

・住宅、要配慮者施設が扇状地に点在

【流域治水プロジェクト(案)】

○流域対策

・既存ダムの洪水調節機能の強化(下流の流量を減らす)

・霞堤の保全(氾濫流が拡散する前に本川に戻す)

・排水作業準備計画の作成(排水ポンプ車等の準備計画)

○ソフト対策

・大規模工場等の企業水防支援(河川水位、決壊地点毎の時系列の浸水想定等の情報提供)

・監視カメラ設置による危険箇所の早期把握

・ライフライン・交通のBCP支援(耐水化等の支援のための地点毎の詳細な浸水深・浸水継続時間の提供)

・マイ・タイムライン、避難確保計画の作成(時系列の浸水想定等の情報提供)